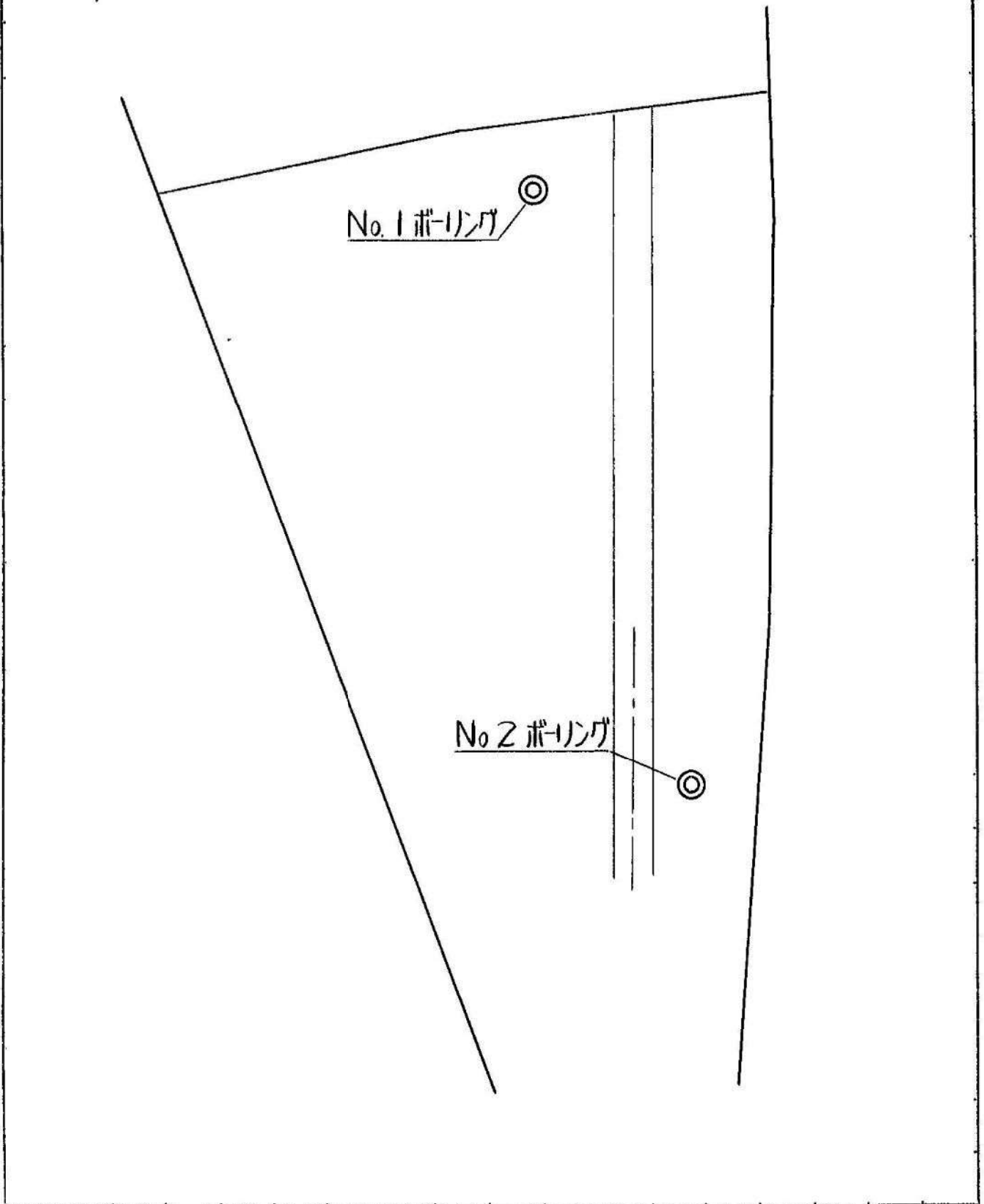


オ 1 図
富山市営斎場ボーリング位置図
富山市西の街地内
縮尺 1/1000



第 2 図

1号ボーリング地質柱状図

調査名 富山市営高橋ボーリング工事
 調査地 富山市西の階地内
 調査期 41年4月10日 ~ 41年4月21日
 掘削深度 5.20 m

標尺	深 度	層 厚	地 質 記 事	地 質 色	観 察 記 事	試 料		標準貫入 試験記事			
						番号	採取深度	10	20	30	40
	90	90	表 土	暗褐色	0.00-0.25 軟い、水田状土 以深砂を含めがわり締る	1	N値				
			砂 礫 灰		1.50で全透水ある	2					
				礫径最大30cm以上の 巨礫を含む 礫は円礫 全般的に礫径大きく、礫量 も多い、よく締っている	3						
				崩れはあまりないが、堤道 中一部の巨礫は移動する。 排水90%前後	4						
					5						
				5.50-6.00 一時的に全 透水ある箇所あり。	6						
				礫径最大20cm前後 巨礫は少くなるが礫量は 多い	7						
				互刃に帯灰色の砂片(5cm) をはこむ、よく締っており崩 れは殆どない	8						
				礫層は硬い	9						
					10						
				礫量やや少くなる。 全層を通じて透水多く、一時的 に全透水箇所あり。 崩れ僅かあり	11						
					12						
				礫量少くなり 礫径も最大 10cm前後となる							
			第 灰 1800 付近より 砂 20cm と礫 30cm 程度の互刃 となる 透水 崩壊なし。								
5											
10											
15											
20											
	2030										

第 3 表

調査期間 昭和41年4月14日～4月21日		調査地名 富山市岩倉橋ボリング工事		地層調査		試験一覧表 No. 1 分		標高 m							
標高 m	深度 m	層厚 m	柱状図	地質	地色	観察記事	相対密度	相対湿度	標本番号	採取方法	採取深度 m	標本番号	試験	試験	
90	90	90		赤土	暗褐色	粒径200μ以上の巨礫を含む。全的に磁鉄鉱の含量も多くよくばついている。	相対密度 相対湿度	相対湿度	1	CT		1	試験	試験	
				砂	灰	所に磁鉄鉱の存在は、磁骨は硬い。			2	"			2		
						磁骨が少なく、粘土層が厚い。			3	"			3		
									4	"			4		
									5	"			5		
									6	"			6		
									7	"			7		
									8	"			8		
									9	"			9		
									10	"			10		
									11	"			11		
									12	"			12		

I ま え が き

富山市の依頼により市営斎場予定地のボーリング工事を実施したためその結果を報告します

敷地の富山市西の番一帯は常願寺川扇状地に位置し 地質的には沖積層の河床泥濘堆積物からなっていると予想される

敷地内の地盤地層の変化及び土層の状態 強度を調査するため

鉋研式KS-4型試錐機により 4月9日~21日の間深度20m及び5mの調査ボーリングを行い 原位置試験として標準貫入試験を実施した

II 調 査 の 経 過

各ボーリングの掘さく状況と経過については

1 号ボーリング 深度 20 m 口径 85~65 mm

地表から0.90 mまでの表土は水田の床土で 0.25 mまでは軟いが以深は砂を含めかなり締まっている

0.90 mより最終深度20.30 mまでは砂礫層となる

0.90~6.00 mは最大30 cm 程度の巨礫を含み全般的に礫量も多く部分的に全透水する所もあるが崩壊はあまりなくよく締まっている

6.00~18.00 m 上部は礫径も礫量も大であるが下部になるにしたがって礫径は若干小さくなり礫量も少くなる礫は硬く崩壊僅かにある

18.00 m以深は 砂20 cm 礫30 cm 程度の互層状を呈する

が透水崩壊はない

掘さく時の地下水位は低く5.20mを観測している

2号ボーリング 深度5m 口径85~65mm

地表から0.20mまでの表土は田の床土である

0.20mから最終深度の5mまでは砂礫層であるが礫径最大30cm程度のものが多く非常によく締っており崩壊透水は殆んどない。5.00m付近で全透水するが掘さく当時の地下水位は非常に低く確認できなかつた

III 標準貫入試験

軟地内の地盤は表土を除けば全て砂礫層であり、又この砂礫層は玉石を含む非常によく締つたもので当初予定した標準貫入試験並びに土質試験を実施する必要は全くなかつた

IV 地盤の支持力

ボーリング工事の結果表土を除く砂礫層は50以上のN値を有することは容易に考えられ、この場合本軟地内地盤の許容支持力は $70\frac{\text{t}}{\text{m}^2}$ 以上と想定することは全く危険とは思はれない